

FacilityDataHub

- 人・職場・資産をつなぐプラットフォーム -

- 資産の「あれこれ」モヤモヤしていませんか？ -

before

台帳記載の場所と現地が合わず
どの資産か分からない…

担当者が変わったけど
引継ぎ漏れが多い…

取扱説明書が見当たらない…

型番・メーカーが
分からない…



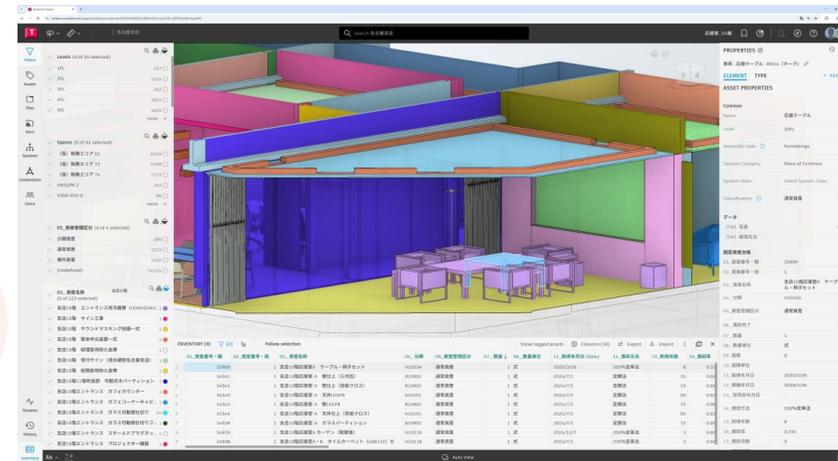
after

建物3Dモデルで資産管理DX
資産情報をまるっと見える化！

残存価額

サイズ・色

取扱説明書



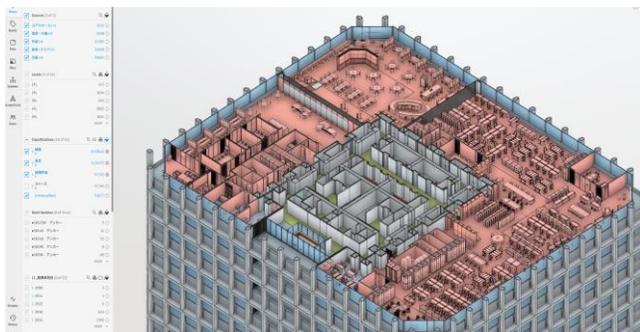
データの一元化 + 視覚情報で「知りたい資産情報」に簡単アクセス

- 導入事例 -

背景と課題

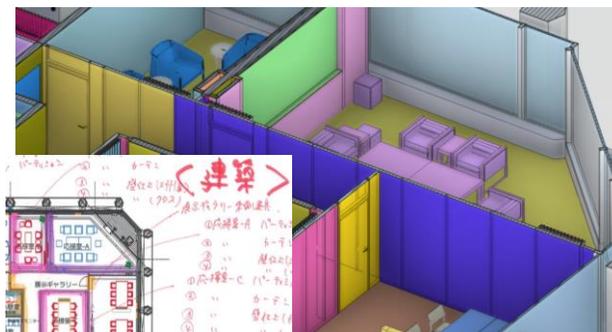
テナント入居としてオフィスビルへの移転。
引継ぎ業務の効率化と資産情報の正確な管理が課題となっていた。

資産区分の明確化



テナントである自社の資産かビル所有者の管理資産かを色分けし、ひと目で区別できるようにしました。
退去時の原状回復が必要な範囲や、故障時の費用負担がどちらにあるか、判別が容易になりました。

資産情報の一元化



資産管理担当者が手書きで管理していた資産情報をデジタル化し、什器リストや購入履歴などデータを集約しました。
必要な情報へのアクセスがワンストップで完結し、資料を探す手間を削減しました。

引継ぎ業務の効率化



Rooms ↑	01_資産番号	04_分類	05_資産管理区分	11_取得年月日	耐用年数	16_償却率	17_償却月数
応接室A	10067	H10104	通常資産	2018/4/1	8	0.833	80
応接室A	10068	H10104	通常資産	2018/4/1	8	0.833	80
応接室A	10069	H10104	通常資産	2018/4/1	8	0.833	80
応接室A	10070	H10104	通常資産	2018/4/1	8	0.833	80
応接室A	10071	H10104	通常資産	2018/4/1	8	0.833	80
応接室A	10072	H10104	通常資産	2018/4/1	8	0.833	80
応接室A	10073	H10104	通常資産	2018/4/1	8	0.833	80

施工時に活用した建物3Dモデルに、各固定資産情報を紐付けて登録しました。
モデルとリストが対応しているため、スムーズで抜け漏れのない引継ぎを実現しました。

担当者の声

モデルとリストを見比べられるため、棚卸しなどの管理業務で抜け漏れがパッと分かり確認作業を効率的に進めることができました。
これまでの資産や什器・備品の管理は属人化の傾向にあり、時間がかかっていた引継ぎ業務がスムーズにできました。
今後は、スペース管理・検討等にも利用していきたい。

資産管理だけじゃない！

- FacilityDataHubで広がる可能性 -

建物の情報が詰まった「賢いデジタル模型」

「BIM」と呼ばれる建物3Dモデルをマスターデータとしています。壁や窓、家具などの各要素が「かたち」+「情報」を持っています。現実世界そのまま。だから、知りたい情報に迷わずアクセス。

部門の壁を越える連携とデータ活用

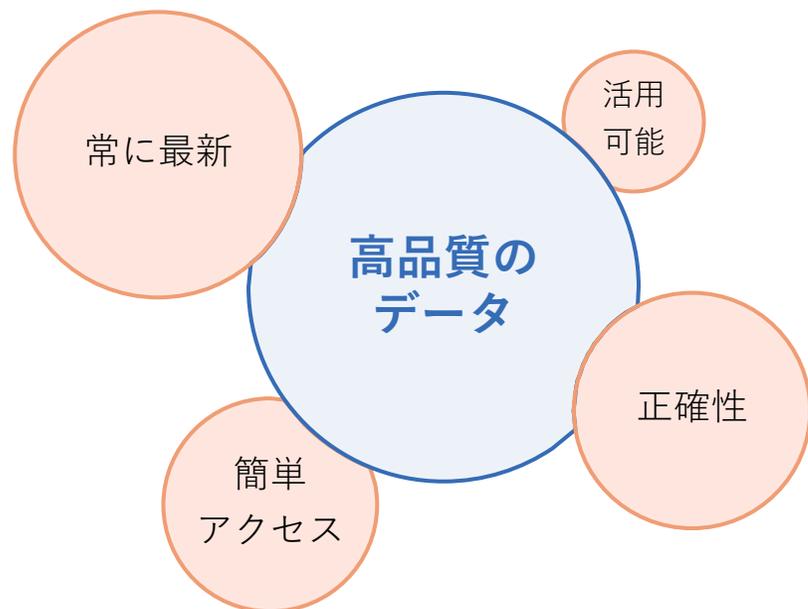
部門間の情報が統合され、ひとつのデータ基盤で多様な業務が可能です。連携がスムーズになり組織全体の生産性向上に貢献します。データハブとして、スペース管理や外部システム・IoT連携もでき、過去のデータや利用状況に基づく戦略的な計画の立案に役立ちます。

誰でも、自由にデータ活用

今まで建物3Dモデルの活用においては専門スキル・ソフトが必要でした。プラットフォームをオープンな環境にすることで、ブラウザ上で、誰もがシンプルな操作でデータを自由に扱えます。



- 清水建設が「高品質のデータ」を提供します -



日々の管理業務から
オフィス計画などの経営判断まで
ファシリティマネジメントを幅広くサポート

- データ成熟プロセス -

phase 1

必要最低限のデータで運用を開始し
確かな基盤を築く

phase 2

日々の運用でデータを共有・更新
組織内で常に最新情報を共有

phase 3

お客様とともにデータが育ち
新たな価値を生む

FacilityDataHub

SHIMIZU CORPORATION 
清水建設